

愛子天皇の誕生がその新しい第一歩 錦田愛子

いま注目のコメントを見る



(慶應義塾大学教授 = 中東政治、難民研究)

2024年5月18日 11時57分 投稿

【提案】

皇族の人数が減少するのは、現在の皇室典範が父系主義を貫き、女性皇族が皇族以外と結婚した場合は、皇室を離れる規定とされているからだ。あたかも**女性の地位は配偶者の身分によって決まると言っているかのよう**だ。女性を夫の従属物とみなす**ジェンダー規範**がそこには作用しているのではないか。

かといって皇族内での婚姻が相次げば、近親婚による遺伝的な問題が生じかねない。それを防ぐため、上皇后美智子様以降は一般からのお輿入れが続いているが、その際には後継ぎとなる男子を生むことが強く期待されることとなる。キャリア官僚だった雅子皇后陛下は、**仕事を辞めて不妊治療に専念することを迫られた**。その結果、適応障害に長く苦しむことになってしまったことは、海外では「雅子妃——菊の王冠の囚人」というタイトルで本が出され、空港の書店で山積みになっているのを見たことがある。**苦勞の末に生まれた愛子さまは、女性であるため皇太子となれない**。

そもそも世界的に見ても、70年にわたり在位したイギリスのエリザベス女王をはじめ、女性が国王となる例は少なくない。日本でも歴史上かつて女性天皇は数多く存在してきた。**皇室における父系主義は、明治以降に強化された男尊女卑の弊害**といえる。ジェンダー差別が厳しく批判される現代社会において、聖域のように皇室典範の父権主義を守り続ける意味はあるのだろうか。**グローバル・スタンダードに適応した新しい国の形を模索し、新しく「創られた伝統」の悪弊は改訂していくべきではないか**。個人的には**「愛子天皇」の誕生が、その新しい第一歩としてふさわしいのでは**と考えている。

皇族数の減少、宮内庁に強い危機感 与野党協議は難航避け

られず 朝日新聞 有料記事 中田絢子 2024年5月18日 8時00分

安定的な皇位継承に向けた皇族数の確保をめぐる与野党協議が17日、始まった。次世代の皇位継承権者が秋篠宮家の長男悠仁さま（17）のみとなるなか、皇族数の確保は喫緊の課題だ。

・ 河西准教授「国民の声反映も必要」 皇位継承の与野党協議始まる

宮内庁は、政府と立法府の検討を見守る姿勢に徹しているが、水面下では皇族数減少と将来にわたる皇位継承に対する強い危機感が共有されている。

各党の意見には隔たりがあり、協議の難航は避けられない見通し。宮内庁内では将来にわたる安定的な皇位継承への懸念も強く、ある元幹部は「問題は差し迫っており、結論を出してほしい」と語る。

西村泰彦長官は4月、皇族数の減少について「宮内庁としても大変重要な課題だというふうに認識をしている」と言及。「十分な議論がなされて施策がなされることを期待しております」と述べた一方で、安定的な皇位継承についてはコメントを控えた。

現在、皇室の構成は天皇陛下を始め17人。上皇さまと上皇后さまは公的な活動を退き、このお二人を除いた皇族方も70代以上が4人を占め、今後さらに多くの活動を担うことは難しい。

今春、天皇皇后両陛下の長女愛子さまが大学を卒業し、成年皇族としての公務を本格化させたが、愛子さまを含む40代以下の皇族方は、6人中5人が女性だ。皇室典範の定めにより、天皇や皇族以外と結婚すれば皇室を離れることになる。

上皇さまの退位から5年余り。天皇、皇后両陛下は皇太子ご夫妻時代の行事の一部を引き続き担い、皇族方はこれまで夫妻で出席してきた行事にお一人で臨むなど、工夫をこらしてきたが、皇族数減少は構造的な問題だ。負担は今後も増していくとみられ、制度の抜本的な見直しが必要な状況が続いている。（中田絢子）

河西准教授「国民の声反映も必要」 皇位継承の与野

党協議始まる

朝日 有料記事

聞き手・中田絢子 2024年5月18日 8時

00分



退位により上皇ご夫妻が公務から退き、結婚により秋篠宮ご夫妻の長女小室眞子さんは皇室を離れました。皇族方が減り、皇室全体で高齢化が進んでいるにもかかわらず、公務は減っていない。

また、被災地訪問など時代の要請に応えるための公務も出てきており、1人の皇族に対する負担が大きくなっているのは間違いありません。

皇族数減少により皇室の活動全体が先細れば、国民の目に触れる機会が減ります。日本の伝統文化を受け継ぎ、光が当たらない人々のもとを訪れるといった皇室の存在意義に対する理解も薄れていくのではないかと懸念しています。

今の40代以下の未婚の皇族6人のうち、5人が女性です。皇室典範は、女性皇族が天皇や皇族以外と結婚した場合、皇室を離れると定めています。悠仁さまが即位するころには、支える皇族が極めて少なくなっていることが予想され、安定的な皇位継承も危ういこ

とは従前から指摘されてきました。こうした状況に鑑みれば、国会の動きは遅いと言わざるを得ません。

与野党協議では、皇族数確保や安定的な皇位継承に向け、**女性皇族が結婚後も皇室に残る案**や、**戦後に皇室を離れた旧宮家から男系男子を養子にとる案**が議論されます。

実際に**制度面での細かな検討になると与野党で一致点を見いだすのは容易ではない**でしょう。**ただ、ここで一定の結論を出して制度改正をしないと、対象となり得る方が年齢を重ね、状況が変化していきます。手遅れになりかねません。**

また、実際に制度改正にあたっては**どこかのタイミングで公聴会を開く**など、**なんらかの方法で国民の意見を聞く手続きも必要**です。与野党は「静謐（せいひつ）な環境」で議論することの重要性を主張しますが、皇室制度が多数の国民の理解のもとで安定的に成り立っていることをみれば、結論には民意を反映させ、**退位のときのように大多数の国民が賛成できるような環境をつくるべき**です。（聞き手・中田絢子）